

## 【南京大虐殺も捏造(二)】

皆様にとって、どんな一年だったですか？泣いても笑っても残り一ヶ月です。各人それぞれに自分の人生を点検して、また来年に良き流れを繋いで頂ければ幸いに存じます。

さて、今月号前半は、南京問題のまとめ。後半は『冬至水行祭・ほしまつり』のご案内をさせて頂きます。

### 【ティンパリーという人物】

『南京大虐殺』なるものが初めて世に出たのは、昭和十三(一九三八)年の事です。ヨーロッパで一冊の本が出版されました。書名は『What War Means: The Japanese Terror in China』

(戦争とは何か―中国における日本の暴虐)』。著者はティンパリー氏。

彼はオーストラリア出身で、マンチエスター・ガーデアン紙特派員を務めたジャーナリストです。ちなみに、ティンパリーは蒋介石の国民党中央宣伝部国際宣伝顧問だった事も分かっています。つまり彼は、蒋介石から報奨金を貰って、デマをばらまき謀略を仕掛けるスパイでした。亜細亜大学の東中野修道氏とそのグループの研究が、南京事件など無かつた事を完璧に証明しています。南京

事件の吹き込みにヨーロッパでは成功したから、今度はアメリカにどう吹き込んで支援をより多く引き出すか？ティンパリー自身が、仲間に相談している手紙も見つかっています。これらの事実に基づくと、もはや南京事件という事実が捏造されたものである事は紛れもないでしょう。

### 【蒋介石という人物】

蒋介石という人はスパイを使って嘘をばらまく謀略に長けていましたが、自分自身は決して嘘は言わない人だった様です。南京戦以後、蒋介石は外国人記者団と実に三百回以上の記者会見を行っています。南京事件が事実なら、それを宣伝するのにこれ以上の場はありません。しかし、蒋介石が南京事件について発言したという事実は一度も、一言もないのです。もう一方の旗頭である毛沢東も同様です。毛沢東は講話、講演を何度も行い、膨大な著作を発表しています。けれども、南京事件には全く触れていません。なぜでしょう？

答えは一つです。事実でないものに対して、何も言えないし、何も書く事が出来ないからです。

中国から、南京(大虐殺)事件について問われたら、次の様に問い返して

下さい。●「蒋介石は南京事件について何か言っていますか？」●「毛沢東は南京事件をどう述べていますか？」と切り返したならば、中国側は何も言い返せないでしょう。なぜなら、それが紛れもない事実だからなのです。

### 【南京問題まとめ】

南京では攻防戦が行われました。市街戦ともなれば、一般市民の犠牲は避けられません。市民は原則すべて安全地区に避難しており、結果的にここは戦場になっていません。つまり一般市民の虐殺という事で言えば、犠牲者は限りなくゼロに近いのです。更に、戦勝国の日本は、インフラ構築に全力を注ぎ、先月号でも記しましたが、南京に移住してくる人口が急増しました。

もし南京が、日本人によって占拠された危険な地域であれば、人口も減少するのが普通でしょう。どれだけ日本国が心を尽くしたかが想像に難くありません。証拠となる膨大な写真や資料は、一般に公開されています。これが南京事件の真実でした。

### 【日本国憲法について】

現行の日本国憲法とされているものは、日本が国家主権を持たない占領下にできたものです。昭和二十七年に米

国から国権を回復した後も、未だ現在に至るまでGHQが作成した憲法に従って、日本国が成り立っています。国権のない所で国権の発動である憲法の制定などできるわけがありません。憲法の前文には、『国民の生命も安全も外国に任せる』と明記されています。外国に生命も安全も任せ

ている憲法など、どこの国にあるというのでしょうか。現行の日本国憲法は、連合国の占領政策基本法と言っても過言ではありません。日本人は律儀にも摩訶不思議な憲法に依っている為に、日本は根本的に筋の通らない国になり下がり、数多の病巣を温存する事になってしまっているのだらうと思います。私達国民一人一人が自覚を持ち、新憲法制定を指さなければ、日本国は路頭に迷ったままになる事でしょう。国を愛する心を持ち、その先に初めて信仰心という心が芽生え、各々の信仰によって、万民の平安が約束されるものと信じています。



合掌 副住職 谷川寛敬